取組と目標に対する自己評価シート（フェイスシート）

|  |  |
| --- | --- |
| タイトル | 健康づくり・介護予防の推進 |

|  |
| --- |
| 現状と課題 |
| 団塊の世代が65歳を迎えた平成27年には高齢化率が21.6％となった。高齢者単身世帯数、高齢者夫婦世帯数の合計は17％となっており、今後一層の増加が予測される。　　　　健康づくりや介護予防は、町民一人ひとりが意識して日常生活の中で継続して取り組む意識やそのための環境が重要となっている。 |
| 第７期における具体的な取組 |
| 町では、健康づくり課（保健センター）、地域包括支援センター、社会福祉協議会による健康づくり、介護予防事業をはじめとして、様々な機関・団体や部署との連携により、健康づくりや介護予防に対する意識啓発を行うとともに、町民が実際に取り組める機会の維持・拡大を図る。 |
| 目標（事業内容、指標等） |
| 全ての高齢者を対象とした健康づくりに向けた取り組みを継続的に実施します。介護予防事業：運動機能向上、閉じこもり予防のための教室を実施。健康づくり：集会所単位での健康づくりグループの設立や活動支援。毎日1万歩運動。生涯学習：老人クラブ対象の寿学級の実施。各種スポーツ大会の開催。公民館教室の実施やクラブ・サークル活動の育成。老人クラブ：健康増進と親睦を図るための活動費として一部補助。 |
| 目標の評価方法 |
| * 時点

□中間見直しあり☑実績評価のみ* 評価の方法

健康づくりや自主グループの数や教室の開催数、参加者数、内容の把握。 |

取組と目標に対する自己評価シート（フェイスシート）

|  |  |
| --- | --- |
| タイトル | 高齢者の活躍の場・生きがいづくり |

|  |
| --- |
| 現状と課題 |
| 実態調査の結果、町の重要施策として「身近な地域で高齢者が就労等を通して活躍できる場づくり」をあげている方が3割を超えていた。 |
| 第７期における具体的な取組 |
| 高齢者がこれまで培った経験や知識を生かして活躍できるよう、地域社会の基盤整備や高齢者の積極的な参加を促進する。 |
| 目標（事業内容、指標等） |
| ・高齢者の活躍の場、仲間づくりの推進（社会福祉協議会のふれあいいきいきサロン・ゲートボール大会の開催、老人クラブ活動の一部補助。）・長寿を祝う活動の推進（子どもから大人まで町ぐるみで長寿を祝い、長寿を学べるような機会を推進する。（敬老会・敬老年金支給・一世紀長寿祝金支給） |
| 目標の評価方法 |
| * 時点

□中間見直しあり☑実績評価のみ* 評価の方法

　老人クラブ数や会員数、いきいきサロンの参加者数の把握　長寿を祝うサービスの実績 |

※取組及び目標が複数ある場合は、それぞれについて作成してください。

取組と目標に対する自己評価シート（フェイスシート）

|  |  |
| --- | --- |
| タイトル | 生活支援・介護保険サービスの充実 |

|  |
| --- |
| 現状と課題 |
| 実態調査の結果、相談する相手（家族や友人・知人以外）として「要介護認定者」の回答は「ケアマネジャー」が6割を占めており、「要支援認定者・自立高齢者」は医療関係者の割合が3割と最も高かったが、「そのような人いない」と回答した人が3割を占めていた。また、在宅生活の継続に必要な支援・サービスとしては「移送サービス・配食・通いの場」があげられていた。今後、在宅生活を送る高齢者が、住みなれた地域や家で生活を送ることが出来るよう、介護保険以外の日常生活支援サービスの充実を図る必要がある。 |
| 第７期における具体的な取組 |
| 医療や介護が必要になっても、高齢者本人や家族の状態に応じて、必要な医療や介護、日常生活を支援するサービスが、利用者の選択に基づいて円滑に提供される体制を整備する。　 |
| 目標（事業内容、指標等） |
| ○定期巡回・随時対応型訪問介護看護の充実○比企地区9市町村で在宅医療と介護連携を一体的に進める。　ガイドブックの作成、研修会開催、住民向け講演会、医療連携拠点の設置○認知症の人が住み慣れた地域で暮らし続けることが出来る支援体制の構築 |
| 目標の評価方法 |
| * 時点

□中間見直しあり☑実績評価のみ* 評価の方法

○定期巡回・随時対応型訪問介護看護の利用状況○在宅医療・介護連携事業の委託状況○認知症初期集中支援チーム・認知症カフェ・相談支援体制の状況 |

※取組及び目標が複数ある場合は、それぞれについて作成してください。

取組と目標に対する自己評価シート（フェイスシート）

|  |  |
| --- | --- |
| タイトル | 介護給付適正化 |

|  |
| --- |
| 現状と課題 |
| 要介護認定を受けた高齢者の生活を支えるという目的が達成されていない場合や、効果が期待できないサービス計画が組まれているような場合には、適切な指導が必要である。今後、病院からの退院者や在宅医療を必要とする町民の増加が予測され、医療ニーズの高い高齢者の増加が予測される。 |
| 第７期における具体的な取組 |
| ・地域ケア会議においてサービス計画を確認し、介護支援専門員に対して、より効果的なサービス計画作成を促す。・費用対効果が見込まれる縦覧点検・医療情報との突合により、国保連合会と連携した取り組みを行う。 |
| 目標（事業内容、指標等） |
| 自立支援型地域ケア会議を開催する。国保連合会と連携し、縦覧点検・医療情報との突合を行う。 |
| 目標の評価方法 |
| * 時点

□中間見直しあり☑実績評価のみ* 評価の方法

○地域ケア会議の開催状況 |

※取組及び目標が複数ある場合は、それぞれについて作成してください。